

花かげの花守りたち

主題名 自然を守ることの意味

内容項目 自然愛護

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

ねらい

自然の偉大さ素晴らしさを理解し、自然を大切にしようとする心情を養う。

主題設定の理由

指導内容について

本指導内容は、自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりすることに関する内容項目である。

自然環境を保護するとともに、自主的、積極的に環境を保全する態度を育てることが求められている。このような態度は、地球全体の環境の悪化が懸

念され、持続可能な社会の実現が求められている中で、特に身に付けなければならないものである。自分が育てる動植物だけでなく、自分の周りにある動植物を大切にしようと考え、自分にできることを考えることで自然愛護についての道徳的価値の大切さを理解することができるように指導する。

児童について

高学年になると、自然の仕組みについての理解が深まり、自然環境に関わる課題についても理解できるようになる。児童は、生活科の学習で植物を育てたり、理科の学習で植物の仕組みを学んだりしている。児童にとって、植物は身近なものである。しかし、自然愛護について自分の生活と関わらせて考えたり、自分にできることを考えたりするところまでには至らない。「自然を大切にしなければならない」ということを分かっているものの、普段の生活の中

で「何をどのようなすればよいのか」までは考えられないのである。さらに、自分の生活を豊かにすることを優先してしまい、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してしまうことがあるので、自然にも、私たちと同様の命があることに気付かせる必要がある。教材をきっかけとして、自然の大切さを自分の体験を基に考えられるようにしたり、自分と自然との関わり方について考えられるようにしたりすることが必要である。

教材の特質について

本教材は、実際の出来事である。^{ひばる}檜原桜を守るために、動き出した主人公。そして、その活動に心を動かされた市長や市民。最後には、檜原桜は守られることとなる。このような教材を通して、児童は

「自然を大切にすることはどういうことなのか」「自分はどうだろうか」「自分には何ができるだろうか」と考えることができる。

出典：土居善胤 「花かげの花守りたち」より

評価のポイント

- ① 自然愛護について、これまでの経験と関わらせて考えを深めることができたか。
- ② 自然愛護について考えたことを振り返ることで、これからの自分の生き方に生かそうとする態度を養うことができたか。

導入

1. 自然を大切にすることについて考える

- 「わたし」は、市長さんに向けて「花の願い」を書きました。どのような気持ちだったのでしょうか。
- ・何とかして、檜原桜を守りたい。
- ・守りたい。自分に何ができるだろう。
- このことをどう思いますか。どうしてそのように思うのですか。
- ・すごいと思います。だって、なかなかできることじゃないからです。
- ・どうして、ここまでできるのか不思議です。

- 檜原桜が満開の写真を見て、主人公の気持ちを考えられるようにする。
- 主人公の行為について考えることで、自然を守ることの素晴らしさを考える。

「わたし」は、檜原桜を守るためになぜそこまでしたのだろう。

展開

2. 檜原桜を守ろうとする人々の気持ちを考える

- ①多くの市民が「かげの花守り」となりました。市民は、どのような気持ちでしていたのでしょうか。
- ・自分にも何かできることはないかな。
- ・檜原桜を守るために自分も何かしなくちゃだめだ。
- ②なぜ、市民はこのようなことをしたのでしょうか。何か理由があるのでしょうか。
- ・檜原桜を守りたいと思ったから。きれいに咲いている桜の木をなくしたくないから。

- 市民の気持ちを考えることで、桜を守ろうとする心から「自分にも何かできることはないだろうか」という自分との関わりで考えられるようにする。

3. 自然愛護について、自分との関わりで考える

- ③自然を守りたいと思ったのは、どのようなときですか。それは、なぜですか。
- ・あまり自然のことを考えたことはないな。自分が育てた植物ならあるけれど。
- ・朝顔や野菜を育てたときに、何とか枯らさないで守りたいと思いました。だって、大切に育てている植物だったからです。
- ・自然を守ろうの会があって、家族でゴミ拾いに行きました。それは、自然を守るためにする活動でした。

主体的・対話的で深い学びのために

- ◆福岡市民の活動を知り、自然との関わりについて自分自身の経験を考えられるようにする。
- ◆個々の自然との関わりについて考えることを通して、自然に対する様々な考えを引き出せるようにする。

評価 「自分にできることは何か」を考え、これからの生活に生かしていくように考えられたか。(発言、記述)

終末

4. 学習のまとめをする

- 今日の学習でどのようなことを考えましたか。
- ・檜原桜を守るために、自分にできることをしたことで桜が守られたことを知りました。自分にはできないことで、本当にすごいと思いました。
- ・これから自分にできることは何かを考えてみようと思いました。

花かげの花守りたち



板書

板書例と指導の流れ

主人公「わたし」の行為を通して、自然に対する思いを考えよう

多くの人の思いが檜原桜を救うことにつながったことを考え、自分と自然との関わりについて考えるきっかけにしよう

花かげの花守りたち

「わたし」は、檜原桜を守るためになぜそこまでしたのだろう。

板書例

主人公の「わたし」がしたことをどう思いますか？

檜原桜満開の写真

すごい。
なかなかできないこと。

どうして、そこまで
できたのだろう。

市民は、どのような気持ちだったのでしょうか。

木々に短歌や俳句を記した数十枚の紙がある写真

市民の活動の写真

自然を守りたいと思ったとき

- ・自分が育てた植物。枯らしたくないと思って一生懸命に育てた。
- ・自然を守る活動に参加した。自分に何かできることはないかと考えて参加した。

授業の流れ

(1)「わたし」は市長さんに向けて「花の願い」を書きました。どのような気持ちだったでしょうか。

(2)「わたし」がしたことをどう思いますか。どうしてそのように思うのですか。

(3)多くの市民が「かげの花守り」となりました。どのような気持ちだったのでしょうか。

(4)なぜ、市民はこのようなことをしたのでしょうか。

(5)自然を守りたいと思ったのは、どのようなときですか。それは、なぜですか。

(6)今日の学習で、どのようなことを考えましたか。

授業を活性化させるコツ

◆多面的・多角的に考えさせるために、自然について興味関心をもって考えることができるようにすることがポイント

本事例では、自然愛護をいかに自分との関わりで考えられるようにするかが重要となる。そのために、

教材の内容を通して、自然を愛することについて考えられるようにする。教材内での登場人物の行為の意味や思いを考えることは、自分と自然との関わりを考えるきっかけとなる。



教材の吟味・具体的な活用方法

本教材の構造

本教材は、伐採される予定だった桜の木を市民が一丸となって守った経緯が描かれている。①檜原桜が今年もきれいに咲いている。しかし、3週間前に一本が切り倒された。②わたしは、残された木も切られるのではないかと考え、「花の願い」を木に結びつけた。それに気付いた市長が「ついの開花」を許す。③檜原桜のことが話題となり、短歌や俳句を木に結びつける人が増えた。その中には、市長からの短歌もあった。④多くの市民の活動によって、檜原桜は守られることとなった。

福岡市が身近でない児童にとっても、本教材は分かりやすい。そして、一人の市民がきっかけとなって檜原桜を守り抜いたことに児童は「すごい」と感じる。主人公であるわたしの行動を「すごい」と感じることを通して、

「なぜ、このような行動ができたのか」「何を守るために行動に踏み切ったのか」などを考えることができる。

現代的な課題に関する内容

自然愛護は、児童にとって普段の生活で感じることは少ない。そのため、自然愛護については児童にとって身近なところから考えさせることが大切である。「自然を守る人はすごい」→「なぜ、そこまでできるのだろうか」→「自分には何かできることはあるだろうか」と考えられることが大切である。



「考え、議論する」授業のポイント

道徳的価値を理解させるために

満開の檜原桜の写真をきっかけに話し合おう

満開の檜原桜は、誰が見ても素晴らしさを感じるものである。この自然の素晴らしさを感じることをきっかけに教材へと入る。すると、児童は数々の苦労の末に桜があることを知る。このことから、自分自身の自然との関わりを考えることで、自然愛護の道徳的価値の理解は深まる。

自己を見つめさせるために

自然を守りたいと思った経験を話し合おう

児童一人一人の自然を守りたいと思った経験を問うことで、自分自身のこれまでの自然との関わりを考えることができる。

多面的・多角的に考えさせるために

自然を守りたいと思った経験を話し合おう

児童一人一人の自然との関わりについて話す時間を設定することで、自然に対する様々な考えを引き出せるようにする。

自己の生き方についての考えを深めさせるために

考えたことを振り返ろう

自然について考えたことを振り返ることで、これからの自分に生かそうとする態度を養うことができる。

指導内容の系統性・発展性、各教科等との関連

道徳科（6年）——自然愛護

5「チョモランマ清掃登山隊」（環境の保全）

29「熊野の森を守る 南方熊楠」（自然とともに生きる）

「花かげの花守りたち」（自然を守ることの意味）